

大会における感染予防ガイドライン

(一財)石川陸上競技協会

日本スポーツ協会・日本陸上競技連盟の感染拡大予防ガイドランスを必ず確認の上、石川陸上競技協会としてもガイドラインに準じて、各主催者はこれらを参考に大会運営の開催に務めて下さい。

<各競技場に応じた対策を作成し、審判・選手に把握させること>

①【大会開催にむけて留意してほしいこと】

☆しばらくは、無観客での開催をお願いする。<事前に連絡できる工夫をする>

☆医師・看護師を必ず配置し、発熱者が出た場合は、隔離する部屋（テント・場所）に待機させる。

→行動範囲や濃厚接触者など、必要事項を記録しておく。

☆選手および審判・顧問など大会に関わる者全員に「健康チェック表」を記入の上、提出させること。提出しない者は参加させない。

(体調管理チェックシート【大会当日提出用】)

→1ヶ月は保管もしくは県陸協事務局へ提出下さい。

☆大会開催2週間前に「競技会開催の基本情報と前提条件の確認用紙」（日本陸連資料参照）を県陸協事務局へ提出下さい。

☆その他必要事項

- ・審判打ち合わせは審判マニュアルを作成し主任会議のみを実施。その後に各審判部署で打ち合わせる。
- ・夏場は熱中症対策も十分に行うこと
- ・手洗い石鹸・消毒液・ペーパータオルなどを必要箇所に必ず設置して対応すること。
- ・会場へ来る際、競技中以外はマスク着用をお願いする
- ・喫煙場所は、会場内は禁煙とする。
- ・スタンド等には、大会関係者のみとし、集団応援も禁止し、密集にならないよう注意喚起させる。(コーチ席も同様にマスクの着用と密集を防止)
- ・スタンド出入口は1カ所に絞り、大会関係者以外が入らないよう看板等も設置(競技場によって、自由にに入れる場合は、張り紙などを多めに掲示する。)
- ・スタンドに一般観客を入れる場合は、氏名・住所・連絡先を記入させ、検温も実施。(3密にならないよう呼びかける <そのための担当者も配置>)
- ・更衣室やシャワー室は基本使用させないが、使用せざるを得ない場合は、換気や一時使用人数を制限して短時間で会話を控えさせて利用させる。
- ・競技・大会終了後は、必要な場所や器具類は必ず消毒を実施する。
- ・各学校や選手は待機場所に消毒液等を各学校で準備してもらう。

②【大会前の準備】

- ・大会開催2週間前に「競技会開催の基本情報と前提条件の確認用紙」(日本陸連資料参照)を県陸協事務局へ提出下さい。
- ・審判・競技者への連絡事項は事前に作成し、配布などを行って周知させる。コロナ感染関係の必要な事項は大会要項などにも掲載する
- ・健康チェック表を必ず記入させるよう案内し、大会当日に提出させる。提出がない場合は参加させない(審判・選手・顧問すべて)
- ・1週間前から体温や体調をチェックする用紙(日本陸連資料参照)は常に選手へ周知させ、提出を求める。
- ・ビニールカーテンや消毒液、手洗い石鹸、フェースマスク、ペーパータオルなど準備
- ・関係医師・看護師を依頼し、連係病院をお願いしておく。

③【大会後の対応】

- ・体調管理チェックシートは県陸協事務局に提出を求めることがあるので各自で保管しておく。
- ・使用した器具や本部室機材、ドアノブ等はすべて消毒を行う。

④【部署ごとに準備・設置してほしいもの<基本>】

- 受付・・・体温計、健康チェック表と回収箱、報道への注意事項
- 医務室・・・発熱者隔離場所や囲い（場所がない場合はテントを準備）

フェース・シールド	出発係、招集係、選手呼び出し審判員、マーシャル、看護師、医師、フィニッシュ誘導担当、アナウンサーなど *必要に応じて防護服・ゴーグルなども準備。
ビニール・カーテン	審判・競技者受付、本部記録、情報など
消毒液（消毒シート）	審判競技者受付、各審判待機場所、補助員待機場所、招集所、競技場出入口、選手退場口、スタンド出入口（競技場による）、ウォーミングアップ場、出発係、フィールド種目場所、用器具庫フィニッシュ付近、決勝計時、写真判定室、アナウンス、本部記録、情報、電光掲示、給水係など
手洗石鹸水	各トイレ、各審判待機場所、補助員待機場所、ウォーミングアップ場、用器具庫、各手洗い場所、フィニッシュ付近、写真判定室 など *手洗い場所がある場合
ビニール手袋	出発、投擲、跳躍場所で器具などに触る担当者、状況に応じてマーシャルや競技者、誘導係、給水係、救護など必要な部署

⑤【大会参加にむけて厳守すべきこと<審判・競技者すべてを含む>】

<受付>・・・マスク着用・フェースシールドやビニールカーテンなどを設置

- 朝の検温を必ず行い、その結果は・・・必ず大会総務へ報告願います。

<37.5℃以上は参加許可しない>

- 各学校の競技者・補助員は顧問へ必ず報告をする→大会総務員（担当者）へ報告
- 審判・一般競技者は受付を必ず行い、その際に検温と健康チェック表を記入させ提出させる。検温結果を記録しておく。提出無き者は参加できない
<県陸協事務局へ提出を求める場合もある→1ヶ月は保管しておく>
- 大会当日健康チェック表の提出と用紙の準備（各学校はまとめて提出）

<連絡事項>

- 審判業務終了後は必ず手洗い・うがい・手の消毒を行う。（マスク着用も）
- レース・ウォームアップ時以外はマスクの着用をすると同時に手洗い・うがい・消毒・洗顔などを徹底することを促す。
- ハンカチなどは各自で準備させ、ゴミはすべて個人で持ち帰らせる。

⑥【審判・補助員・選手の待機場所】

- ・3密にならないよう場所等の工夫をする
- ・通気性を確保し、換気の悪い室内等は利用しない。夏の暑い時期にクーラー使用時は定期的に換気を実施か、数カ所窓などを開けておく。
- ・1～2m間隔を保つ配置とマスクやフェースシールド、ゴーグルなど着用
- ・テントなどを利用すると同時に密集しない工夫をしてほしい

<西部緑地の場合>

- ・審判は、本部室・会議室・トレーニング室を利用する。
本部記録・情報室はビニールカーテンを設置。写真判定室は最小限の人数を部屋に入れ（換気に注意）、スタンド付近も活用する
- ・補助員は最低限の人数にしぼり協力をお願いする。参加できる学校を事前に調査
待機場所は雨天走路で部署ごとに配置させる。
- ・選手待機場所は：テントなどを利用すると同時に密集しない工夫をしてほしい
サブの雨天走路・スタンド裏通路など分散方式をとる。密集を避ける

⑦【ウォーミングアップについて】

- ・選手同士の間隔を十分に取り、3密を避ける。
- ・雨天走路を利用する際は、換気を必ず取るようにする。（晴天時は使用させない。
場合によっては、雨天時でも選手待機場所として活用し、雨天走路は使わさない）
- ・投擲種目は練習日程時間を計画して投擲場で行わせる。（競技時間の工夫）

⑧【運営面について留意してほしいこと<競技場に応じた対策>】

- テントを多めに設置して、密集を避ける。
- 競技者と審判との動線を分ける（スタンド下通路は競技者は使用させない）

<招集について>

- ・最終点呼は現地実施方式をとり、一次招集では欠場者は必ず招集開始時刻までに×をつける
→掲示板を利用し多めに設置。雨以外は外に設置。（室内は避ける）
- ・選手の移動は各自で最終点呼時間までに現地集合とする。
- ・レーンナンバーを配布する際は手渡しを避け、使用後は消毒を行い、同じモノをできるかぎり使用しないようにする。大会後は洗濯して日光に十分あてて乾かす。
- ・最終点呼では密集にならないよう組ごとに工夫して行うこと。
- ・競技者の待機場所は密集するので、場所を工夫するか2～3組ごとに集合させるようにする
- ・タイムテーブルを細かく分けて日程を組み、トラック種目では、集合場所が密集しないよう工夫する。
- ・必要に応じて、ゲート外やダッグアウトも活用する。

<競技について>

○トラック種目

- ・1500m以上の中長距離・競歩種目は1組の人数が12～15名以内で編成実施。
- ・フィニッシュ後、密集しないように誘導し、速やかに退場するよう指示。入退場口はゲートの外を活用。
- ・レース後は必ず、うがい・手洗い、消毒を指示する。
- ・スターティングブロック、バトン、手旗、時計、ピストルなど機材は大会終了時に消毒する。

○フィールド種目

- ・3密にならないよう指示し、選手同士の会話は避けさせる。
- ・審判・補助員の配置が密集しないよう工夫する。
- ・選手の待機場所は、間隔を開けるよう配置する。入退場はゲートの外を利用する。
- ・ワンピットに30人以上にならないようタイムテーブルを工夫・競技運営を行う。
走幅跳は場合により、正面とバックに分けて実施し、トップ8も同場所で実施もあり得る。
- ・（西部緑地では）走高跳と砲丸投は同時刻にならないよう工夫する。
- ・投擲種目では、競技終了後に器具を消毒する。すべり止め粉などは担当者より渡す方が好ましい。